

労働力調査における就業異動のよりの確な把握について

「転職希望」と「追加就業希望」の分離把握

総務省統計局労働力人口統計室
令和8年2月9日

労働力調査における就業異動のよりの確な把握について

- これまでの雇用失業統計研究会での議論にもあるとおり、現状の労働力調査の調査票（特定調査票A5）では「転職等希望者」は把握できるが、「転職希望者」と「追加就業希望者」とを個別に把握することができない（参考1）
 - ⇒「転職等希望者」が1000万人を超えた2023年においても、要因分析が困難だった
 - ⇒政府も副業・兼業（＝追加就業）を促進する立場をとっている（参考2）
- そもそも2013（平成25）年以前の調査票では、「転職希望者」と「追加就業希望者」を個別に把握していた（参考3）
 - ⇒当時、経済の低迷等を背景として、非正規雇用者の増加等就業構造が大きく変化しつつあったことから、調査事項を大幅に見直し
 - ⇒一方で、①2002（平成14）年以降の結果をみると、月々では季節的な変動があるものの、四半期の結果により傾向の把握が可能、②年ベースでは大きな変化はないとして、「別の仕事もしたい人」に係る選択肢の削除の上、基礎調査票から特定調査票へ移動

「転職希望者」、「追加就業希望者」を個別に把握すべきではないか

現行調査票

A5 転職などを希望していますか	転職などを希望している 実際には仕事を探している 仕事を探していない <input type="radio"/> <input type="radio"/>	転職などを希望していない <input type="radio"/>
A6 今の仕事の就業時間を増やしたり新しく仕事を追加することができますか	できる できない <input type="radio"/> <input type="radio"/>	
A7 今の仕事の前に何か仕事をしていましたか	したことがある したことがない 今はやめている 今もしている <input type="radio"/> <input type="radio"/>	

→ **D欄へ** → **E欄へ**

案1 転職・追加就業希望を分離

A5-1 転職を希望していますか	転職を希望している 実際には仕事を探している 仕事を探していない <input type="radio"/> <input type="radio"/>	転職を希望していない <input type="radio"/>
A5-2 今の仕事のほかに別の仕事も希望していますか	今の仕事のほかに別の仕事もしたい 実際には仕事を探している 仕事を探していない <input type="radio"/> <input type="radio"/>	別の仕事を希望していない <input type="radio"/>
A6 今の仕事の就業時間を増やしたり新しく仕事を追加することができますか	できる できない <input type="radio"/> <input type="radio"/>	
A7 今の仕事の前に何か仕事をしていましたか	したことがある したことがない 今はやめている 今もしている <input type="radio"/> <input type="radio"/>	

→ **D欄へ** → **E欄へ**

案2 平成25年以前に戻す

A5 転職などを希望していますか	転職を希望している 実際には仕事を探している 仕事を探していない <input type="radio"/> <input type="radio"/>	今の仕事のほかに別の仕事もしたい 実際には仕事を探している 仕事を探していない <input type="radio"/> <input type="radio"/>	転職も別の仕事も希望していない <input type="radio"/>
A6 今の仕事の就業時間を増やしたり新しく仕事を追加することができますか	できる できない <input type="radio"/> <input type="radio"/>		
A7 今の仕事の前に何か仕事をしていましたか	したことがある したことがない 今はやめている 今もしている <input type="radio"/> <input type="radio"/>		

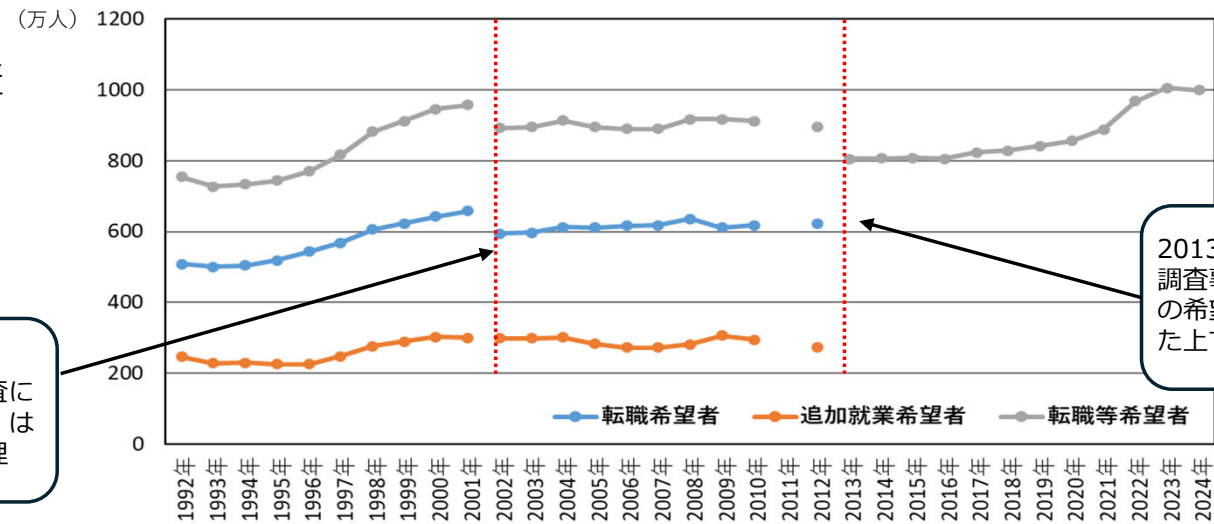
→ **D欄へ** → **E欄へ**

	案1	案2
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転職と追加就業を同時に希望している者の把握が可能 ・ 転職希望者数のより正確な把握→実際の転職者数との比較 ・ 転職と追加就業とは異なる概念。分割してそれぞれ質問するほうが回答しやすいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査票変更前（2012年以前）との時系列比較が可能 ※ただし、現行調査票ですでに10年以上が経過。また、調査票が基礎から特定に変わっている点には注意が必要
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査票のスペース圧迫 ・ 転職と追加就業を同時に希望している場合、どちらが主たる希望かが不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転職希望にも追加就業希望にも該当する者がとれない（例：最終的には転職したいが、当面はバイトの掛け持ちを希望）

⇒案1・案2共通の懸念事項として、設問A5を変更することより、設問A6の回答（未活用労働指標LU2、LU4）に影響を及ぼす可能性あり。また、設問A6が直前の設問と若干重複した内容となっているように見える（参考4）。

参考1 労働力調査及び就業構造基本調査における転職希望者、追加就業希望者の推移

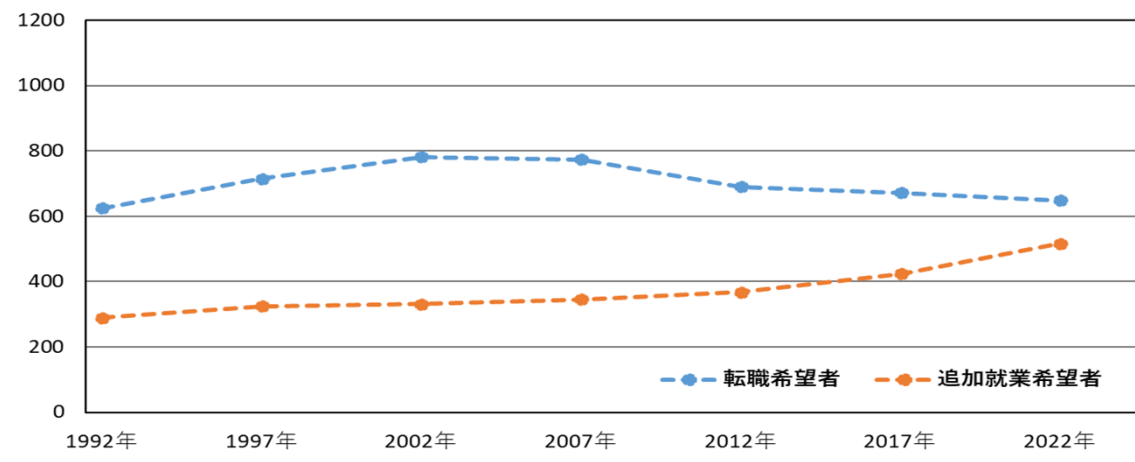
労働力調査



2002（平成14）年
労働力調査特別調査を労働力調査に統合。「転職などの希望の有無」は基礎調査票の調査事項として整理

2013（平成25）年
調査事項の大幅見直し。「転職などの希望の有無」は選択肢を簡素化した上で、特定調査票に移動

就業構造基本調査



参考 1 労働力調査及び就業構造基本調査における転職希望者、追加就業希望者の推移（つづき）

雇用失業統計研究会（第21回）資料 1 「令和 4 年就業構造基本調査の結果について」（抜粋）

転職希望者及び追加就業希望者の定義等について(就業構造基本調査)

「転職希望者」 : 現在就いている仕事を辞めて、他の仕事に変わりたいと思っている者
 →有業者のうち、「この仕事を今後継続しますか」で「ほかの仕事に変わりたい」と回答した者

「追加就業希望者」 : 現在就いている仕事を続けながら、他の仕事もしたいと思っている者
 →有業者のうち、「この仕事を今後継続しますか」で「この仕事の他に別の仕事もしたい」と回答した者

A12 この仕事を今後も続けますか
 ・同じ会社で配置や勤務地を変わりたい場合は「この仕事を続けたい」とします

この仕事を続けたい (A13 ~)

この仕事のほかに別の仕事もしたい (A12 の3 ~)

ほかの仕事に変わりたい (A14 ~)

やめてしまいたい仕事をすっきり (A14 ~)

【※労働力調査 特定調査票 A 5 「転職などを希望していますか」について】
 “雇われている人が自分で事業を始めたいあるいは、勤め先を変えたいなどと考えている場合や「中略」今の仕事のほかに別の仕事もしたいと考えている場合をいいます”（「記入のしかた」より抜粋）

A5 転職などを希望していますか

転職などを希望している
 実際には仕事を探している 仕事を探していない

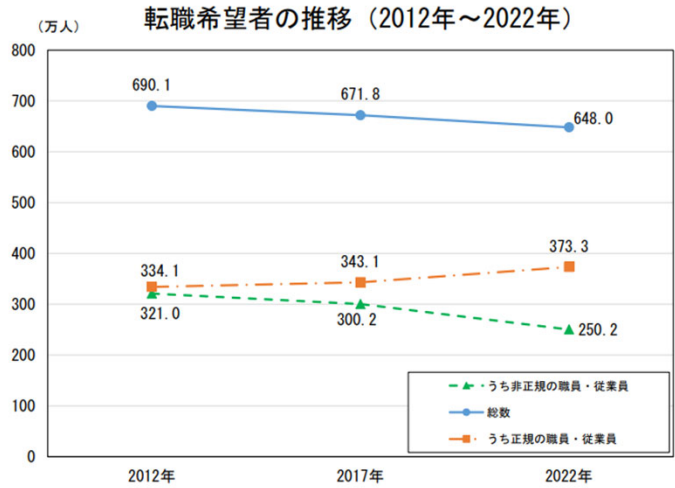
転職などを希望していない

参考1 労働力調査及び就業構造基本調査における転職希望者、追加就業希望者の推移（つづき）

雇用失業統計研究会（第21回）資料1 「令和4年就業構造基本調査の結果について」（抜粋）

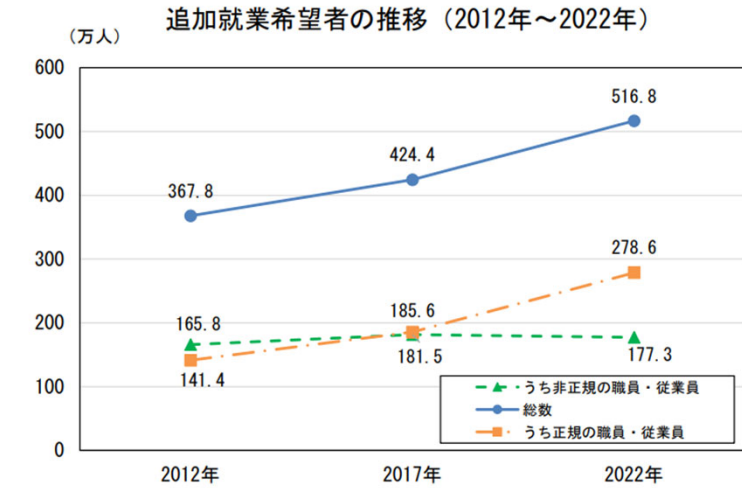
転職希望者①

- 有業者のうち転職希望者は648万人で、5年前に比べ23万9千人の減少
- 転職希望者のうち「非正規の職員・従業員」が250万2千人で、5年前に比べ50万人の減少



追加就業希望者

- 追加就業希望者は516万8千人で、5年前に比べ92万4千人の増加
- 追加就業希望者のうち「正規の職員・従業員」が278万6千人で、5年前に比べ93万人の増加



参考2 副業・兼業の促進に係る動き

2017（平成29）年 『働き方改革実行計画』（平成29年3月28日）

「柔軟な働き方がしやすい環境整備」の一環として、「労働者の健康確保に留意しつつ、原則副業・兼業を認める方向で、副業・兼業の普及促進を図る」

2018（平成30）年 厚生労働省が「副業・兼業の促進に関するガイドライン」を策定・公表

2020（令和2）年 『経済財政運営と改革の基本方針2020』（骨太方針2020）（令和2年7月17日）

労働時間の管理方法のルール整備を通じた兼業・副業の促進など複線的な働き方や、育児や介護など一人一人の事情に応じた、多様で柔軟な働き方を労働者が自由に選択できるような環境を整備し、RPAの活用を含む更なる生産性向上に向けた好循環を作り出す。

2021（令和3）年 『成長戦略実行計画』（令和3年6月18日）

多様な働き方や新しい働き方を希望する方のニーズに応え、企業における兼業・副業の選択肢を提供するとともに、短時間正社員等の多様な正社員制度の導入を促進する。

2022（令和4）年 『新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画』（令和4年6月7日）

成長分野・産業への円滑な労働移動を進めるため、さらに副業・兼業を推し進める。

このため、労働者の職業選択の幅を広げ、多様なキャリア形成を支援する観点から、企業に副業・兼業を許容しているか否か、また条件付許容の場合はその条件について、「副業・兼業の促進に関するガイドライン」を改定し、情報開示を行うことを企業に推奨する。 ※令和4年7月、厚生労働省がガイドラインを改定

そのほか、毎年の『規制改革実施計画』に基づき、副業・兼業の更なる円滑化に向けた環境整備が進められている

参考3 「転職希望」、「追加就業希望」に係る調査票の変遷

現在の調査票になる以前は、「転職希望者」「追加就業希望者」は個別の選択肢であり、それぞれの動向を把握することができていた。

1972（昭和47）年～

13 転職などの希望の有無 転職・転業を希望する人のうち その仕事を探している人は・・・・・・・・・・・・・ 1 探していない人は・・・・・・・・・・・・・ 2 今の仕事（この1週間やふだんしている仕事）のほかに 何か別の仕事もしたい人のうち その仕事を探している人は・・・・・・・・・・・・・ 3 探していない人は・・・・・・・・・・・・・ 4 転職も別の仕事も希望しない人（1,2,3,4のどれにもあてはまらない人）は・ 5	} をマルで囲んでください。	転職希望の人のうち	別の仕事もしたい人のうち	転職も別の仕事も希望しない人
		1 2 探している 探していない	3 4 探している 探していない	5 その他

1992（平成4）年～ ※調査票をOMRに仕様変更

11 転職などの希望の有無 ・転職・転業をしたいか または 今の仕事のほかに何か別の仕事もしたいか 及び それらの仕事を探しているかいないかについて記入してください	転職希望の人のうち	別の仕事もしたい人のうち	転職も別の仕事も希望しない人
	仕事を探している 0 仕事を探していない 0	仕事を探している 0 仕事を探していない 0	その他 0

参考3 「転職希望」、「追加就業希望」に係る調査票の変遷（つづき）

現在の調査票になる以前は、「転職希望者」「追加就業希望者」は個別の選択肢であり、それぞれの動向を把握することができていた。

2002（平成14）年～

※労働力調査特別調査を労働力調査に統合（調査票は基礎調査票、特定調査票の2種類）

※「転職などの希望の有無」は基礎調査票の調査事項として整理

<p>13 転職などの希望の有無</p> <p>・転職・転業をしたいか 又は いまの仕事のほかに何か別の仕事もしたいか 及び それらの仕事を探しているかいないかについて記入してください</p>	<table border="0"> <tr> <td colspan="2">転職希望の人のうち</td> <td colspan="2">別の仕事もしたい人のうち</td> <td rowspan="2">転職も別の仕事も希望しない人</td> </tr> <tr> <td>仕事を探している</td> <td>仕事を探していない</td> <td>仕事を探している</td> <td>仕事を探していない</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> </table>	転職希望の人のうち		別の仕事もしたい人のうち		転職も別の仕事も希望しない人	仕事を探している	仕事を探していない	仕事を探している	仕事を探していない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
転職希望の人のうち		別の仕事もしたい人のうち		転職も別の仕事も希望しない人											
仕事を探している	仕事を探していない	仕事を探している	仕事を探していない												
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>											

2013（平成25）年～

※「転職などの希望の有無」は特定調査票の調査事項として整理

<p>A5 転職などを希望していますか</p>	<table border="0"> <tr> <td colspan="2">転職などを希望している</td> <td rowspan="2">転職などを希望していない</td> </tr> <tr> <td>実際に仕事を探している</td> <td>仕事を探していない</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/></td> </tr> </table>	転職などを希望している		転職などを希望していない	実際に仕事を探している	仕事を探していない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
転職などを希望している		転職などを希望していない							
実際に仕事を探している	仕事を探していない								
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							

参考4 設問A6 (未活用労働指標に係る設問) における用語の意味について

<未活用労働指標の解説> より

<https://www.stat.go.jp/data/roudou/pdf/mikatuyok.pdf>

未活用労働 (Labour underutilization) は、このような状態を包括的に表す概念であり、ILO 決議の中で示されている主な測定尺度は、時間関連不完全就業 (Time-related underemployment)、失業 (Unemployment) 及び潜在労働力 (Potential labour force) の3つです。それぞれの状態にある者を測定するために定められた定義は以下のとおりです。

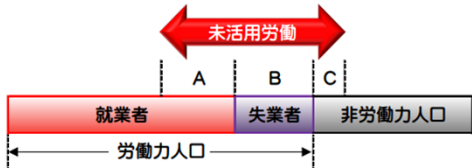
○ 時間関連不完全就業者 (Persons in time-related underemployment)

以下の4つの要件を満たす者

- ① 就業者である
- ② 一定の基準以下の就業時間である
- ③ 就業時間の追加を希望している
- ④ 就業時間の追加ができる

あくまでも「時間」による測定

労働力調査では、上記のILO決議に準拠しつつ、我が国の実情に合わせて以下の3つの就業状態区分を定義することとしました。



A 追加就労希望就業者	C 潜在労働力人口
<ul style="list-style-type: none"> ① 就業者である ② 週35時間未満の就業時間である ③ 就業時間の追加を希望している ④ 就業時間の追加ができる 	就業者でも失業者でもない者のうち、 【拡張求職者】 <ul style="list-style-type: none"> ① 1か月以内に求職活動を行っている ② すぐではないが、2週間以内に就業できる
B 失業者	【就業可能非求職者】
<ul style="list-style-type: none"> ① 就業していない ② 1か月以内に求職活動を行っている ③ すぐに就業できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 1か月以内に求職活動を行っていない ② 就業を希望している ③ すぐに就業できる

<特定調査票 記入のしかた>

A6 今の仕事の就業時間を増やしたり 新しく仕事を追加することができますか

以下のいずれか一つでも該当する場合は、「できる」とします。

- 現在の仕事の就業時間を延ばすこと
- 現在の仕事に加えて、別の仕事を新たに始めること
- 現在の仕事をやめて、別のより就業時間の長い仕事につくこと

仮に、今回の見直しと併せて設問A6をより定義に即した表現に見直す場合のイメージ

A6 今の仕事の就業時間を増やしたり 新しく仕事を追加することで就業時間を増やすことができますか	できる ○	できない ○
A6 今より就業時間を増やすことができますか (転職・副業・兼業を含む)	できる ○	できない ○